

ワークショップ ①《セラピューティックレクリエーション専門分科会》

■テーマ：「新しい概念領域としてのセラピューティックレクリエーションに既存の内容や活動はどう位置づけられるのか」

コーディネーター 関東学院大学人間環境学部教授

鈴木 秀雄

■趣 旨：

科学的な効果を明確に求める治療、療育、療法の領域であるセラピーと余暇における自発的で自主的・能動的な活動・状態としての領域に位置するレクリエーションが、それぞれの度合いの異なりは有しているものの並列的な形態で共存するものがセラピューティックレクリエーションである。

過去のセラピューティックレクリエーション専門分科会では、研修会として「日本におけるセラピューティックレクリエーションの方向性とあり方 ～特にレジャー・レクリエーション機能の拡幅化と深奥化によりその活動の効果をより確実にするために～」(平成9年3月20日(木)13:30～16:00、場所：関東学院大学法学部会議室)や、「セラピューティックレクリエーションの理解とその解き明かし ～特に日本におけるセラピューティックレクリエーション協会の組織化及びセラピューティックレクリエーションの資格化に向けて～」(平成13年9月7日(金)18:00～20:30、場所：横浜市市民活動支援センター研修室)、そして昨年、第32回学会大会ワークショップでは『それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか』をテーマにリハビリテーションとスポーツとの関連、セラピューティックレクリエーションとスポーツとの関連はどのように理解すべきかを提示する座談により、それぞれの領域の本質的な外延と内包の課題について論議した。特に「整形外科医が見るリハビリテーションとスポーツ」(大分中村病院長 中村太郎医師)、「レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が捉えるセラピューティックレクリエーションとスポーツ」(関東学院大学人間環境学部教授鈴木秀雄)について専門的な視点から話題提供を得た。

今回のワークショップでは、セラピューティックレクリエーションの概念が日本に導入される以前からその種の意図を持って行われてきた活動内容や領域が、新しい領域としての“セラピューティックレクリエーション”の、どのあたりに「位置づけられるのか」、あるいは「位置づけられるべきなのか」、また「位置づけられているのか」を論議し、「福祉レクリエーション」などとして捉えられている内容についての課題、概念的齟齬についても論議する。

■話題提供 1 「大学における授業での障害者に対する取り組みから」

石井 允《立教大学名誉教授》

■話題提供 2 「障害者福祉協会における取り組みから」

片桐 義晴《(社福)新宿区障害者福祉協会》

■コーディネーターおよび総括

鈴木 秀雄《関東学院大学人間環境学部教授》